

課題解決に向けた行動計画

和歌山県立医科大学附属病院

2023年度
第3回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名(職種)
和歌山県立医科大学附属病院・緩和ケアセンター	月山 淑（緩和ケアセンター長・医師）
緩和ケアセンター	奥田 有香（緩和ケアチーム担当医師）
緩和ケアセンター	石徹白 しのぶ（看護師長）
患者支援センター	瀧川 浩美（主査看護師）
患者支援センター	小浦 望美（主査社会福祉士）

令和5年度 第2回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

和歌山県立医科大学附属病院

①地域の課題

1. 地域でACPを共有する

- ひとつの医療機関で診断から終末期まで完結しないことが多いため、患者・家族の意向の変化を共有しづらい。

2. 情報共有の精度が悪い

- 治療機関では療養についての患者・家族の意向までは確認出来ていないことも多い
- 医療機関間での情報共有が診療情報提供書・看護サマリーだけのため、医療情報だけで患者の細かい意向・病状理解などまでは共有出来ない
- 個々の医療者が持っている情報が記録として残っていないこともある

②どのような地域を目指すのか

どこにいても適切な緩和医療を受けられる地域にしたい

③課題ごとに取り組むべきことは何か

1. 地域のACPを共有する
2. 情報共有の精度を上げる
 - 地域で統一したテンプレートを作成して時系列で残す
 - 逐語録などの簡易な方法で残す
 - 地域で共有するための方法＝紙ベース、ファイル、電子カルテなどの方法を考える
 - 院内で作成、電子カルテ上で運用してパイロットとして検証する

④具体的な行動計画⑤実施時期

課題	誰が	何を	どのように	いつまでに
地域でACPを共有する	当院の緩和ケアセンター	ACPの会話逐語録のテンプレート	当院電子カルテ上	令和5年度末
情報共有の精度が悪い	できるだけ多くの病院・診療所で	上記テンプレート	共有して経時的に書き足していく	令和6年度末